

- 1 派遣期日 令和元年8月19日（月）
- 2 研修先 学校名 東京学芸大学 小金井キャンパス
所在地 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
<http://www.u-gakugei.ac.jp/>

3 研修内容

（1）講座の概要

健康教育・安全教育でアクティブラーニング！
～新学習指導要領を踏まえた指導の工夫～
東京学芸大学教授 渡邊 正樹（養護教育講座）

小・中・高校の健康教育・安全教育でアクティブラーニングを導入した指導方法についての講座であり、特に新学習指導要領で保健の見方・考え方をどのように活かし、主体的・対話的で深い学びをどのように進めるかについて取り上げた内容であった。

（2）新学習指導要領と指導方法について

ア 保健で育成する資質・能力

＜知識・技能＞

- ・生涯を通じて健康を保持増進することができる知識・技能

※新学習指導要領では、新しく「技能」が取り上げられた。「技能」は単独で評価するのではなく、「知識・技能」として評価する。

＜思考力・判断力・表現力＞

- ・実生活や実社会で健康を保持増進できる思考力・判断力・表現力

＜学びに向かう力＞

- ・健康の保持増進のための実践力を発揮し、明るく豊かな生活を営む態度

イ どのように学ぶか

保健の見方・考え方は「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」である。この保健の見方・考え方を踏まえた学習過程をとおして、「アクティブラーニング」とほぼ同義である「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。

講座名にも使われている「アクティブラーニング」という表現は、学習のための活動が目的と捉えられやすいことから、「主体的・対話的で深い学び」と表現されるようになってきている。

＜主体的な学びの例＞

- ・学ぶことに興味や関心をもつ、自己の学習活動を振り返る、学び方を見直すなど。

＜対話的な学びの例＞

- ・人（クラスメイト、教員、地域の人等）と対話する、本を通して作者と対話する、意見を交換する、協議する、発表する、教え合うなど。

＜深い学びの例＞

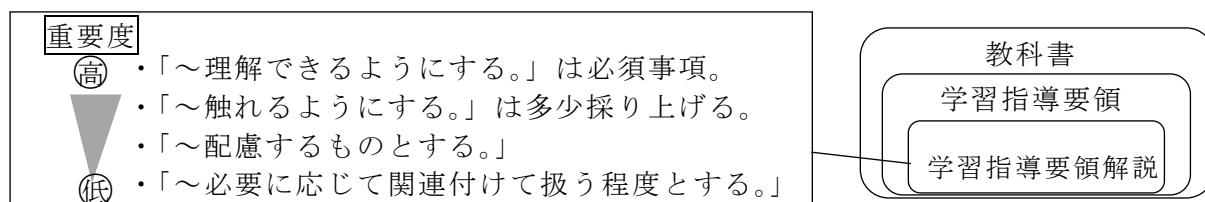
- ・課題を見付けて解決策を考える、精査した情報を基に自分の考えを形成するなど。

新学習指導要領解説の中では、〔例示〕として具体的な学び方が記載されている。

保健では、健康課題を発見する、生活と関連付ける、危険を予測する、健康を保持増進するための方法を考えるなどの学び方が挙げられている。

ウ 学習内容

教科書を全て網羅するのは難しい場合もある。必ず学習しなければならない内容は、新学習指導要領解説でみられる文末表現が判断のポイントとなる。



エ 指導方法

新学習指導要領では、保健の指導方法の工夫について「保健の指導に当たっては、保健の内容に関心をもてるようにするとともに、健康に関する課題を解決する学習活動を積極的に行う等の指導方法の工夫を行うこととした。」と述べられている。このことを踏まえ、さらに次のことに注意して指導方法を選択する必要がある。

- ◎学習内容と目標に合わせた方法を選ぶ。方法が先立たないように注意する。
- ◎指導方法のメリットとデメリットを考慮する。
- ◎適切な時間と内容量で指導する。時間と内容量は効果に比例するわけではない。

<各指導方法のメリット・デメリット>

指導方法	メリット（期待されること）	デメリット
ブレインストーミング	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・知識の習得	・意見が拡散したり方向性がそれたりする
事例などを用いた活動	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・知識の習得	・適切な事例を選ばないと単なるお話で終わる
実験	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・学びに向かう力，人間性等の育成	・応用できる場面が少ない
実習	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・知識及び技能の習得	・単に実施して終わってしまうこともある
ロールプレイング	・思考力，判断力，表現力等の育成	・知識の習得が不十分だと意味をもたない ・現実的な場面をつくれない
フィールドワーク	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・学びに向かう力，人間性等の育成	・時間がかかる
インターネット，図書，視聴覚教材	・知識の習得 ・情報処理能力等の育成	・単に調べただけで終わることがある
ジグソー法	・思考力，判断力，表現力等の育成 ・知識の習得	・時間がかかる ・難しい ・グループによって差が出る

協同学習を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に期待できると注目されているジグソー法を、講座の中で実際に体験した。

4 感想

今回、健康教育と安全教育において育成すべき児童生徒の資質・能力を理解できたことで、今後は目指す児童生徒像と、目の前の児童生徒の実態とを比較しながら、学ぶべき内容を精査して、メリハリのある指導をしていきたいと感じた。また、健康教育や安全教育は、児童生徒の生活に密接に関わってくるため、「主体的・対話的で深い学び」によって実践力を育む指導方法を適切に選択できるよう努めたい。